

1. 報告要旨

本年度はサンプリングや昆虫の現存情報収集の調査は順調に展開できたが、解析依頼先の分析機器の故障のため解析が中断し、残念ながら現在まで解析体制の完全な復帰ができていない。想定外の事態であった。調査としては定点観測している新潟県内・静岡県内・西表島などのサイトや、ネオニコ汚染が推測される新たなサイトのサンプリングなど順調に実施できた。

新たな取り組みとしての、農薬暴露試験は試験水の濃度測定ができない不十分な条件下ではあったが、実施できた。南西諸島の多薬剤汚染地の現地でのサンプル濃度を再現して、そこに検体を投入する形で実施し、無農薬水の試験と比較した。試験にはマダラアシミズカマキリ、ヒメガムシ、タマガムシ、ヒメフチトリゲンゴロウ、オキナワスジゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウを使用した。結果としては農薬汚染水で行動異常の個体はコガタノゲンゴロウで一定頻度で見られたが、死亡個体はコガタノゲンゴロウの1頭のみであった。今回は試験水の経時変化による濃度測定も実施できなかったため信頼度の点で課題が多いが、多くの水生昆虫が減った水域の濃度再現ですぐに多くの種が死亡することはなかった。今後の試験の際には、例えば農薬濃度が急上昇する可能性が高い、降雨後のデータを採取し、それに合わせた試験を実施するなど、水生昆虫への影響実態を知るには多くの課題があることが明らかになった。

2. 成果物

1. 苅部治紀・亀田 豊・加賀玲子・藤田恵美子「北海道から沖縄まで拡大・深刻化するネオニコチノイド系農薬の汚染実態」日本トンボ学会大会口頭発表 人間環境大学 (2022.11.27.)
2. 苅部治紀「深刻化するネオニコチノイド系農薬の環境汚染と水生昆虫への打撃の実態」三浦半島昆虫研究会 神奈川県横須賀市立博物館 (2023.2.19)
3. 苅部治紀「[琉球列島の水生昆虫の危機的状況とその保全](#)」ワークショップ「石垣島を巡る水共生学」沖縄県石垣島大濱信泉記念館 (2023.2.14)
4. 苅部治紀・北野忠「[絶滅危惧水生昆虫の再導入の試行—うまくいったり、いかなかったり 成果と課題—](#)」第70回日本生態学会大会 (2023.3.17)